

がんばってます神戸の農業

No.20 岩岡町

多彩な農産物の生産が行われ、多様な農村地域がある神戸市の農業委員の地元を順次紹介していきます。

今回は神戸市西区の岩岡町と、そこでがんばっている農家さんをご紹介します。

○岩岡町

岩岡町は、神戸市の最西部に位置し、古くから神出と播磨地方を結ぶ交通の要路になっていました。水利に乏しく、雑木林が点在する土地でしたが、元禄時代から開墾が行われ、明治以降の淡河・山田疎水や東播用水の完成により、農業が盛んな地域に生まれ変わりました。

商業作物として開かれた煙草畑には、明治に西洋の品種と技術がいち早く導入され、近代煙草栽培の発祥地とされています。近年、都市化が進んでいますが、キャベツやイチジク、イチゴなど多くの作物も栽培されています。

○がんばる農業者 たけうち ひろやす 竹内 裕康 さん

竹内さんが大学卒業後に就農されてから今年で17年目になります。元々、岩岡町古郷で育ち、東京の農業大学校（昭和43年に農林水産省が設立した農家の後継者確保とリーダー育成のための学校。平成18年より独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構の内部組織となった）に通う中で、大農家の後継ぎになるために勉強に励む同級生達から刺激を受け、専業農家として実家の農地を引き継ぎ、守っていくことを決意しました。

就農前は露地野菜の栽培を考えていましたが、収益性の高い作物を探る中で、イチゴを経営の柱として選択し、現在は約10aの施設で栽培しています。元々実家は兼業農家でイチゴ栽培は初めての取り組みだったので、近隣の先輩農家達からアドバイスを受けながら、スタートしました。

イチゴは全て土耕栽培ですが、化学肥料はほとんど使用せず、バーク堆肥や自家製の籾殻燻炭を使用し、土づくりには非常にこだわっています。また、品種は果肉がしっかりして糖度の高い「おいCベリー」を採用し、主にJAの直売所出荷やケーキ屋への直接販売を行っていますが、味が良いと評判です。

イチゴのほかには、キャベツ、ブロッコリー、太ネギ、オクラなどの露地野菜を栽培しています。いずれも直売所の出荷がメインなので、消費者に手に取ってもらえる品種を日々研究しています。

竹内さんは、作業に追われる農業ではなく、ワークライフバランスを重視し、家族みんなが仲良くゆとりを持って経営できる農業を目指しています。無理のないペースで付面積を増やして、顧客の確保を目指し、安定した経営を継続していきたいということです。また、青年部等の地域組織に参加して仲間づくりをすることで、気分転換や情報交換を行うことも農業経営に役立つとのこと。

美味しいイチゴ作りを追求していきたいと語る姿からは、地域の農業を背負っていかうという覚悟が感じられました。



1981年11月生まれ。主な栽培品目はいちご。

